

市民参加円卓会議と職員研修のイメージ

現状の課題

- 本市では、市民とのパートナーシップを市政運営の基本に掲げ、市民参加検討プロジェクトチームでの検討を皮切りに、市民参加の取組の検討を進め、平成15年には全国に先駆けて市民参加推進条例を施行するなど、市民参加先進都市として取り組んできた。
- 計画の策定や事業の推進に当たっては、ワークショップやパブリック・コメントの実施、審議会の公開や市民公募委員の参画などが取り組まれており、市民参加の仕組みは着実に定着している。
- しかしながら、市民生活実感調査によると、市民参加の取組に対する市民の実感が低迷している状況であり、一方で、市民参加推進フォーラムにおいて「市民参加ガイドライン」の改訂を検討する中で、市職員に主体的な意識が薄れ、これらの取組が形骸化しているのではないかとの声が出ている。
- そこで、市職員に対して、市民参加に主体的に取り組む意識を更に高める取組を進めて、市民と行政とが知恵と力を合わせて課題の解決に当たる、共汗による市政運営を推進し、市民や職員に浸透させていくことが必要である。

課題に対する検証と対応策の検討のために

< 21年3月 市民参加円卓会議（市職員版）の開催 >

- 「なぜ市民の中に、市民参加についての実感が低いのか」や、「どのようにすれば市職員の間に市民参加の機運を高めることができるか」についての検証
- ⇒ 市民参加検討プロジェクト、市民参加推進プロジェクト、市民参加支援プロジェクトなどを通じて、市民参加による市政運営に熱心に取り組んできた職員を集め、市民参加円卓会議を開催し、次の点についてグループワークを行う。
 - ・ なぜあの時、職員が熱く取り組んできたのか。
 - ・ 今の課題は何なのか。
 - ・ 課題の解決に向けて、今後、どのような取組を行えば良いのか。

職員の意識改革や経験の伝承のために

< 21年6月 職員研修（庁内事例発表会）の開催 >

- 市民参加円卓会議での議論を踏まえ、広く市職員を集め、市民参加に対するこれまでの本市での取組を振り返ったうえで、現在の実務上の課題を議論し、解決策を一緒に探る。
- ⇒ 広く職員向けに研修（庁内事例発表会としても位置付け）を開催し、市民参加円卓会議に参加した職員を含めてグループワークを行って、現在抱えている課題について意見を交わし、一緒に解決策を探るとともに、併せてこれまでに蓄積された経験の伝承を行う。